

# 道路改良事業の整備事例

路線名 : 茨田第16号線

道路幅員:  $W=4.0\text{m}$ 【単断面】  $\Rightarrow$   $W=6.5\text{m}$ 【車道 $4.0\text{m}$ +歩道 $2.5\text{m}$ 】

道路延長:  $L=100\text{m}$

事業目的: 当該道路は狭隘かつ屈曲した道路であるが、通学路に指定されたことから歩行者通行の安全を確保するため、道路を拡幅し、歩道を整備するものである。



事業実施前(平成17年)



事業完了後(平成21年)

# 道路改良事業の整備事例

路線名 : 西成区第8304号線

道路幅員:  $W=4.0\text{m}$ 【単断面】  $\Rightarrow$   $W=12.0\text{m}$ 【歩道 $3.0\text{m}$ +車道 $6.0\text{m}$ +歩道 $3.0\text{m}$ 】

道路延長:  $L=60\text{m}$

事業目的: 事業区間は西側街区に比べ狭隘な道路となっており、東行き一方通行規制がかかっている。  
車両交通の円滑化ならびに歩行者通行の安全を確保するため、道路を拡幅し、歩道を整備する。



事業実施前(平成11年頃)



整備完了後(平成23年)

# 橋梁事業の概要・目的

予防保全を軸とした計画的維持管理は、  
橋梁点検・診断

- データ入力(点検結果)
- 健全度の評価
- 管理計画の策定
- 対策工事の実施
- データ入力(対策履歴)

というサイクルで行っています。



## 点検・補修

**橋の点検**

基本的に5年に1回の詳細点検により、橋の損傷状態を確実に把握し、重大な損傷や事故を防止します。



**維持補修**

定期的な詳細点検に基づき、橋の劣化を予測し、損傷が大きくなる前に補修を行う「予防保全」を実施します。



**補強**

車両の大型化に対する補強や、車両用防護柵の設置など安全対策を実施します。



大規模地震に対する、耐震対策などを実施します。



## 架替

**架替**

戦前に架けられた高齢橋について、ライフサイクルコスト分析等により架替要否を判定し、計画的な架替を実施します。  
(詳細はP7参照)



河川改修事業や都市計画事業などに伴う、橋の架替を実施します。



橋梁事業は、予防保全を軸とした計画的維持管理とともに、車両大型化対応補強や耐震対策および、河川改修事業に伴う架替や、高齢橋の計画的な架替を実施し、市民生活の安全性・快適性の向上を図るものです。

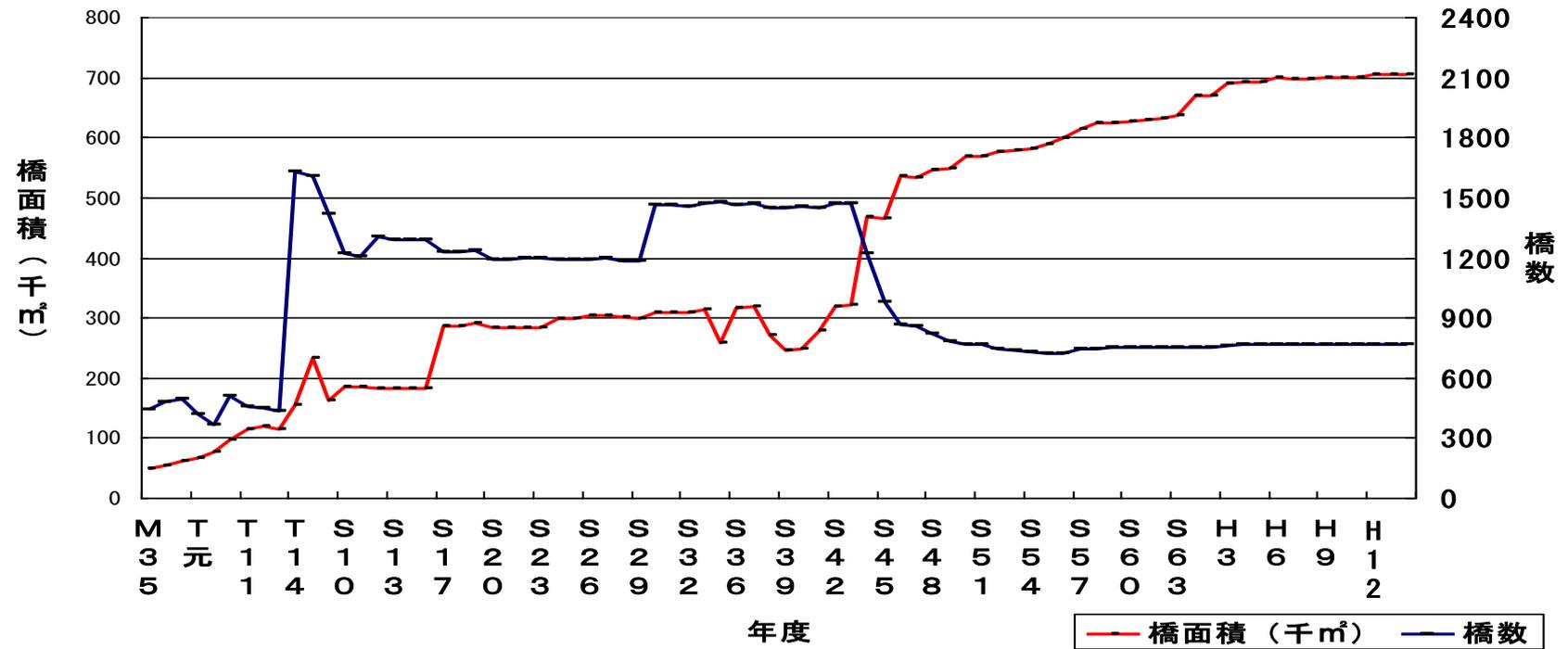
# 管理橋梁数の推移

現在大阪市建設局では、764橋を管理している。

2010年4月1日現在

		橋梁数 (単位:橋)	総延長 (単位:m)	総橋面積 (単位:m <sup>2</sup> )
大阪市管理 (認定橋)	鋼橋	509	41,427	641,560
	コンクリート橋	250	5,692	81,084
	石橋	4	11	23
	木橋	1	614	1,117
	小計	764	47,744	723,784

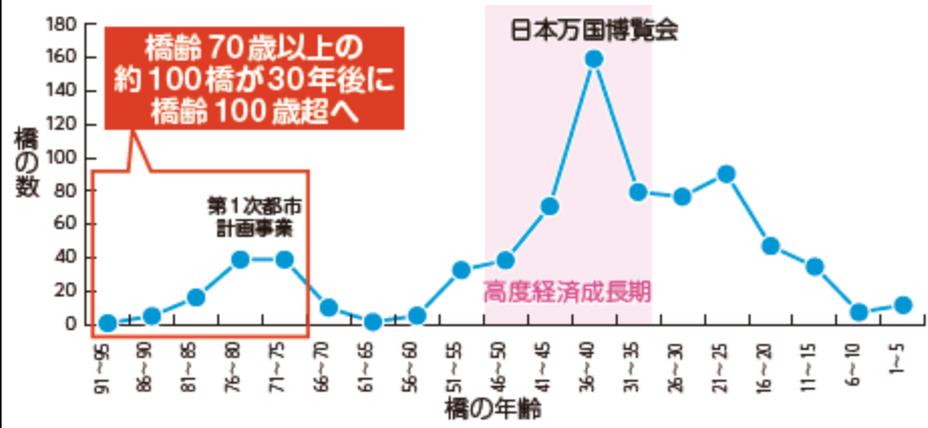
## 橋数・橋面積の推移



# 橋梁事業の現状と課題

## 急速な橋の高齢化

大阪市では早くから都市基盤施設整備が進められ、橋齢50歳以上の橋の割合は、全国平均約6%に対して、約20%と高く、さらに、戦前に架けられた橋齢70歳を超える橋が約100橋にのぼり、今後は橋の架替や維持管理費などの、事業費の増大が予想されます。

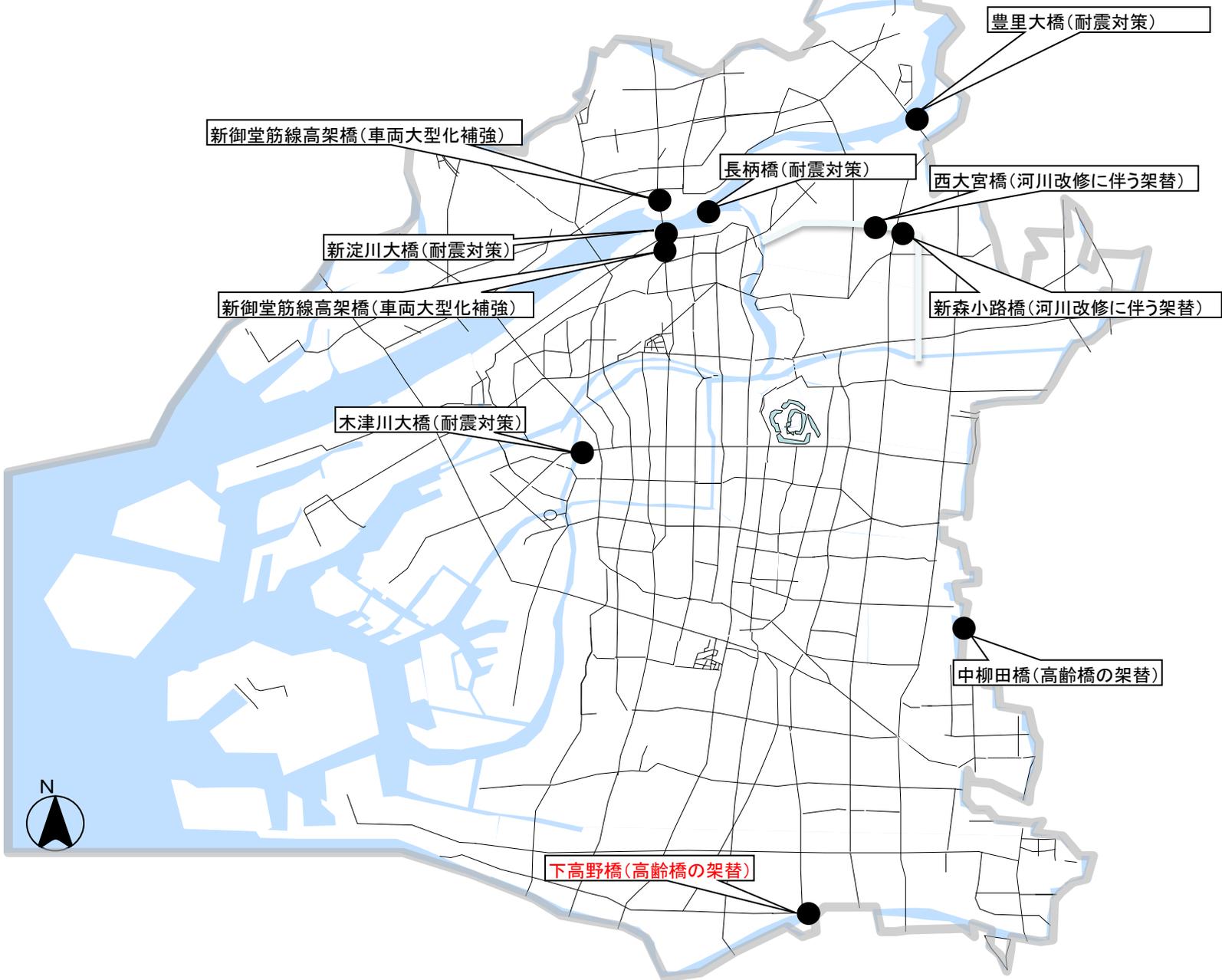


大阪市最高齢の本町橋  
大正2年(1913年)完成

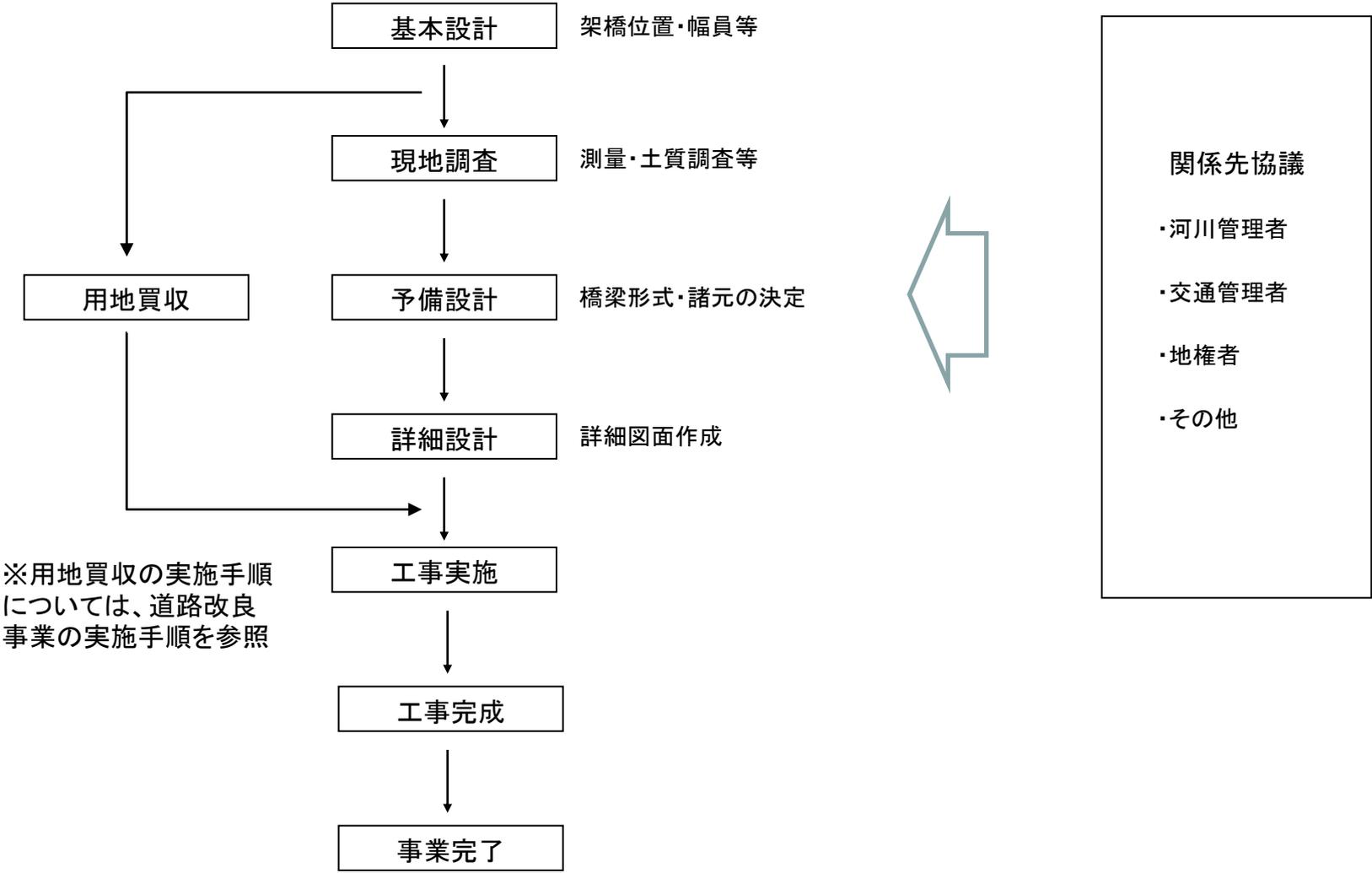
## 橋齢50歳を超える管理橋の割合



# 主な橋梁事業の事業箇所図



# 橋梁架替の実施手順

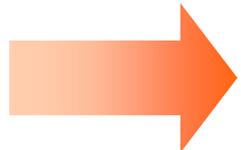


# 橋梁事業(高齢橋架替)の整備事例

## 戎橋の架替

旧橋 (大正14年完成)

架替後 (平成19年完成)



～平成の戎橋  
渡り初め～

